

まちづくり交付金 事後評価シート(原案)  
蓬川地区

平成21年9月

兵庫県尼崎市

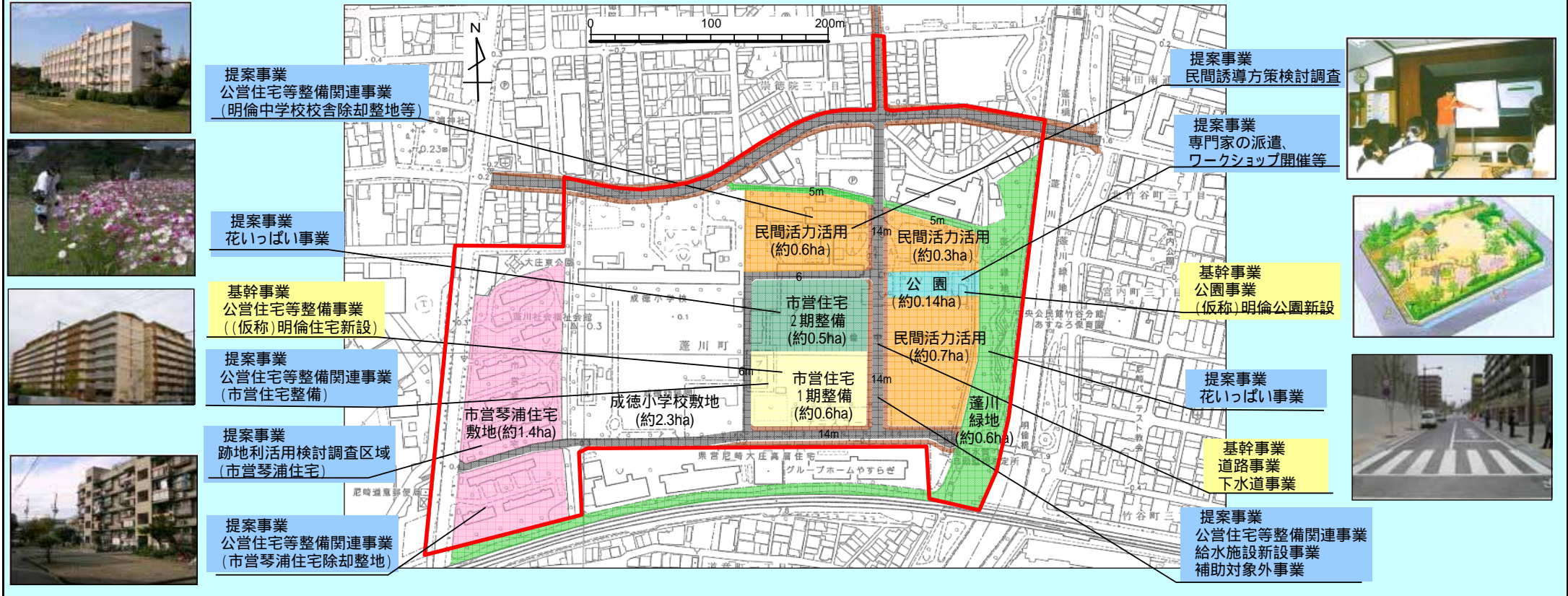
様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県	市町村名	尼崎市	地区名	蓬川地区			面積	11.4ha		
交付期間	平成17年度～21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	2,658.1百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 市道新設(960m)、公園(1,400㎡)、不水道新設(77m)、公営住宅整備(186戸)								
		提案事業	地域創造支援事業(公営住宅等整備関連事業、花いっぱい事業、補助対象外事業)、事業活用調査事業(民間誘導方策検討調査、跡地活用検討調査)、まちづくり活動推進事業(専門家の派遣、ワークショップ開催等)								
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	事業活用調査(事業推進・事業効果等の検討・検証調査)	直営で実施することとしたため		影響なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	なし								
		提案事業	地域創造支援事業(給水施設新設事業)	住宅建設にあたり給水施設整備が必要となったため		影響なし					
交付期間の変更	当初	平成17年度～21年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	中堅ファミリー層の増加率	%	30	16	45	21	60	あり なし	鉄道駅からの立地、自然環境の豊富さから、期待以上に中堅ファミリー層の定住につながった。	平成22年4月
	指標2	車イス利用者や高齢者の来街者数	人/日	40	16	80	21	40	× あり なし	高齢者や車椅子利用者の来街者数は平均値的な数値把握が難しく、効果測定困難であった。	平成22年4月
	指標3	環境改善活動へのボランティアの参加者数	人	0	16	100	21	238	あり なし	花いっぱい事業を通じて地域住民の交流が図れ、地域に対する愛着が生まれた。	平成22年4月
指標4	ワークショップ等まちづくり会合数	回	0	16	4	21	9	あり なし	公園整備にあたりワークショップを通じて地域住民の交流が図られた。	平成22年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度 <sup>1)</sup>	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	高齢者の居住者数	人	350	16		440			概ね当初計画どおりに高齢者の入居状況となった。	平成22年4月
	その他の数値指標2										
その他の数値指標3											
4)定性的な効果発現状況	高齢化率の高い市営住宅、県営住宅と民間ファミリー向け分譲マンションとが地区内に立地することで、相互の特性を生かした地縁型自治活動が生まれつつある。具体的には、高齢者の扶助・懇親活動は公営住宅側の既存自治会活動を中心に、またレクリエーション・地域活動は分譲マンション自治会が合流し支援する形で相互交流の動きが見られる。										
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	・市民主体の花いっぱい事業への参加 ・公園整備に関するワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				・地域住民が主体となった花づくりグループが、自分たちで資材や花苗を調達できる仕組みづくりを支援していく。 ・地域住民の主体的な活動に任せ、市は後方支援に徹する。				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

## 様式2 - 2 地区の概要

### 蓬川地区(兵庫県尼崎市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 地域の自然を活かし、個性豊かで賑わいのあるまちなかの創造 目標1: 良好な居住環境の形成による中堅ファミリー層の誘導と定着による賑わいの創造 目標2: 多様な世代が交流できるよう、公共施設の整備による交通利便性の向上と、バリアフリー化による高齢者等への配慮 目標3: 学校林及び蓬川緑地等既存自然資源を活かした地域住民による継続的な環境改善活動の醸成 目標4: ワークショップの開催等による古くからの住民と新たに住民となった人々による地域コミュニティの形成促進	中堅ファミリー層の増加率	単位: %	30 H16	45 H21	60 H21
	車イス利用者や高齢者の来街者数	単位: 人/日	40 H16	80 H21	42 H21
	環境改善活動へのボランティアの参加者数	単位: 人	0 H16	100 H21	238 H21
	ワークショップ等まちづくり会合数	単位: 回	0 H16	4 H21	9 H21



まちの課題の変化

- ・人口の定着や中堅ファミリー層の増加につながった。
- ・老朽化した市営住宅の建替えにより、住環境が改善された。
- ・蓬川緑地と連続し、また学校の既存樹を活用した公園が整備され、既存の緑を活かしたアメニティ性の高いまちづくりができた。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)